

2010年2月4日
日本テコンドー協会
理事長 河 明生

日本テコンドー協会（J T A）会員各位

不況の最中、大変、恐縮ではございますが、J T A年会費納入をお願い申し上げます。
本年2月27日、J T A会員諸氏のゆうちょ銀行口座等から
1人当たり2000円のJ T A年会費が引き落とされるにあたり、
J T A会員諸氏におかれましてはご一読頂ければ幸いです。

1

不況の最中、多くの中小企業の社長が観じているのと同様、
私・河も、個人的な見解として「大企業の経営者は楽だ」と考えております。
なぜならば、倒産しそうになると政府等が手厚い救済処置を講じてくれるからです。
その間、自己の給料はもちろん従業員の給与は保障されているのですから、
下手をすると命まで借金取りにとられるかも知れない中小企業経営者の不公平感は十分理解できます。

一部の大企業経営者と関係者は「我が社は政府が絶対つぶさない」とほくそ笑んでいると聞き及びます。
その驕った経営観が赤字垂れ流し体質の本質だ、と私は考えております。

その思惑通りになったのがJ A Lだと思われず。

島国日本と世界を結ぶ空の翼として憧れの対象だったはずのJ A Lは実質的につぶれました。

しかし、政府主導による債務保証等の公的救済が開始されたのは周知のとおりです。

オープンスカイ協定が締結される最中、日本にメガキャリアは2社も必要はありません。

にもかかわらず、救済処置が開始されました。

一説によると「J A Lの再建には2兆円かかる」と言われています。仮にそうだとするのなら、税金の無駄使いと言わねばなりません。赤字垂れ流しで自己破綻し、オープンスカイ協定の最中、まったく将来性のないJ A Lという私企業を救済するために2兆円もの大金を使用するよりも、貧困にあえぎながら孤独な死を迎えている年間3万2千人もの日本国民を救うために公的資金を使用すべきだと思います。

他方、大学生の就職先として常に人気の高かったマスコミもインターネットの発展にともなう情報の廉価化や広告収入の減収等により厳しい状況です。地価が廉価だった昔に取得した自社所有の一等地に建てた不動産の賃貸収入等で辛くも経営を支えていると言われております。

昔の花形だったラジオ局は壊滅的と言われ、政府が救済策を検討し始めたと言及びます。

地方の新聞やテレビ局もかなり経営が厳しく政府が何らかの救済策を検討することになるでしょう。

遠くアメリカでも権力の暴走を監視し、民主主義を支えてきたはずの地方新聞が漸次消滅する最中、
ニューヨーク・タイムズ等の世界的大新聞の経営基盤が揺らぎ始め、米国政府・議会では税金投入による救済等が議論されいます。

これら機関が共通することは、「自社には公益性がある」、とうぬぼれていることだと考えます。

また、時代を読む資質、自助努力、自浄能力が足りなかったと考えられます。

とくに収入が少ないにも拘わらず、過剰な設備投資と非合理的な支出等による経費の増大および高賃金・高企業年金・その他高労働条件等を自ら改めることができなかったと思われず。

いわば自業自得と言わねばなりません。

にもかかわらず、これら機関を政府が助け、もしくは助けようとするのですから「大企業の経営者は楽だ」と言わねばなりません。

しかし、小さな武道団体のJ T Aが、仮に経営危機に陥ったとしても誰も助けてはくれません。過剰な設備投資、非合理的な支出、高賃金・高企業年金・その他高労働条件等が一つもないにもかかわらずです。これが現実です。

もし仮に、J T Aの存在が、みなさんのライフワークに重要な意味があり、存在価値があるとするならば、どのようにこの不況を乗り切れればよいのでしょうか？

そのひとつの答えは、他者に依存しない自立的な財政基盤の確立であり、それは「広く・薄く」集めねばならないと考えます。

その一つがJ T A年会費です。

2

J T Aは、本来、人の性質は善であり、その心はもともと純真なものであると考えています。遺憾ながら、人の性質が不善となり、その純真さが汚れるのは、公益性・社会性を忘却し、私利私欲の欲望におおわれるためだと思われてなりません。

詩人・陶淵明は、欲望にもとづく心の汚染や着色に染まらず、本来の人の美しい心＝純真に返った心を「素心（そしん）」と詠みました。

遺憾ながら、我が現代日本は、素心とはほど遠い、不正と私利私欲が蔓延している
－他人を信じられない世の中
になりつつあると言っても過言ではありません。

この殺伐とした世の中で、
あえて武の道を志し、
大小1千を超える武道団体が存在する中、
公益性・社会性を尊ぶ「七大精神」を信条とするJ T Aに入門された人々は、
－人間本来の純真に返った心＝素心
に回帰し、もしくは潜在意識の中で、
本来の人の美しい心・純真に返った心＝素心を求めているのではないかと思われてなりません。

どうしてそれが、私・河にわかるのか、というと、
新たなJ T A入門者＝白帯はもとより、
既存の会員のみなさんが昇級審査の際、提出した小論文をすべて熟読しているからであり、
試合や審査等の地方出張を通じて、全国のJ T A会員と接し、その純粋な心性を観じているからです。
小論文に溢れているのは、
素心と向上心
です。

J T Aは、純粋な向上心を満たせる武道場、素心の武道場を目指したい！
J T A会員の皆さんが、
「日本跆拳道＝フルコンタクトテコンドーを修得することに誇りを持っている！」
「数ある武道の中でJ T Aを選んで本当に良かった！」
と実感していただけるような武道および組織に発展させることが
J T Aトップとしての使命であると考えております（「J T Aのありかたと方針」参照）

理想を実現するためには財源が必要不可欠です。

J T A同様、高い理想を掲げたN P O法人の大部分が、慢性的な赤字に苦しみ、存続すら危ぶまれているのが日本の現実です。これはN P O法人の主宰者自身の「甘えた体質」にも問題があります。

－自立的財源調達無計画性と寄付金依存体質
これにつきます。

大企業に財源確保丸投げの各種スポーツ実業団にも同じ事がいえるでしょう。寄付金徴収に躍起になっている大学や各種研究機関等もしかり。

他方、J T Aは、いかなる企業にも依存していない自主的かつ自立した財源調達で運営されている武道団体です。文部科学省やJ O C、各種財団法人からの援助金や寄付金にも依存しておりません。

しかし、J T Aに豊富な財源があるわけではありません。財源なくして理想を追求することはできません。すなわち「純粋な向上心を満たせる武道場」、「素心の武道場」を目指すことはできないのです。国や地方自治体が、税金なくして存立できないように、J T Aという「社会」も、財源なくして存立はできないのです。

J T A会員のみなさん！

J T Aは、職場や学校などとは異なる一つの「社会」を形成しております。所属クラブを単位とし、職場や学校では味わえない師弟関係、ピュアな同門関係が構築されています。

もしかすると、みなさんが、今現在、在籍している学校や在職している職場もしくは職業は、望んで入学・入社・在職しているわけではないかも知れません。また、昔は、望んで入学・入社したとしても、現在は、望んで在籍・在職しているわけではないかも知れません。

しかしながら、J T Aの道場には、望んで入門し、望んで継続しているはずです。

そしてみなさんが所属しているクラブは、J T A本部の存在なくして創立・存続はできないはず。そのことは、たとえば、みなさんが武道を始めるに当たり、J T A本部ホームページを閲覧しながら、他の武道団体の主張や技術等と比較した上で、J T Aを選んだ白帯当時を思い出して頂ければ明らかだと思います。

今現在、みなさんが在籍しているJ T A道場がみなさんの人生、あるいはライフ・スタイルに、必要であるとするならば、J T Aの財源確保に協力していただけないでしょうか？

みなさんが納入した年会費は、創立以来、日本跆拳道普及事業に使用しています。たとえば、他の打撃系武道団体の大部分は、試合や審査などの諸経費は地方支部の全額者負担ですが、J T Aでは、財政的に余裕のない地方クラブにおける審査、セミナー、試合等への交通費・宿泊費等は、

J T A本部が負担しています。

地方のクラブが財政的に自立できる迄、可能な限り、この方針は継続したいと考えております。

4

第20回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会は、昨年同様、協賛企業なしで運営しました。プロ格闘技等の興行をメインとする後樂園ホールでの全日本大会開催は財源なくして不可能です。この点が、建前上、興行をメインとしない国立系体育館での開催とは大きく異なる点です。しかし、従来の企業協賛がないからといって、J T A傘下のクラブ長には従来通り経済的負担は一切かけませんでした。クラブ長達に組織的に依頼したのは、他の武道団体では慣習化しているノルマ制ではない任意のチケット販売のみです。

参加費の値上げで選手の負担が増えましたが、メジャーな場所で開催している他の打撃系武道の全日本大会が200名近い参加選手から35000円の参加費を徴集している事実に鑑みれば、何ら恥じることはありません。

J T Aの財政を預かる理事長として、みなさんが納入した年会費を有効に活用し、第20回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会の一部運営資金として使用しました。不足分は第13回全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会以来、「慣例」となっている私・河が個人負担してまいりました。それがJ T A理事長の責務だと考えておりますが、この状態を継続することは次の代を考えると適切なことではありません。なぜなら、負担ばかりでは次世代の理事長のなり手がなくなるからです。

－不況なのだから後樂園ホールでの全日本大会開催を辞めるべきではないかという考えもあるかも知れません。しかし、水は高いところから低いところへ流れます。この原則を守らないと組織的発展は望めません。つまり「最強テコンドー」を標榜するJ T Aの最高峰の試合＝全日本フルコンタクトテコンドー選手権大会は、誰もが知っている格闘技の殿堂・後樂園ホールで実施しなければならないのです。

仮に、今から約9年前、J T A立ち上げ早々、「I T Fから抜けては路頭に迷う」等と言いながら我々と行動を共にしなかった2名の元弟子とその生徒約200人が抜けてしまった苦しい状況で、私が、初のフルコンタクト・テコンドー・ルールでの全日本テコンドー大会の開催場所として後樂園ホールを選択しなかったら、どうなっていたでしょうか？

日本の歴史をみると、日本人は基本的に、落ち目の組織、弱気のリーダーとは行動を共にはしません。－世話になったから行動を共にするのが筋という義理人情浪速節だけではもって3年と言うところでしょうか。一人減り二人減り・・・気づいてみるとそして誰もいなくなった、というのが世の常です。

また当時から高い才能とモチベーションを持っていた尾崎圭司のモチベーションは持続しなかったかも知れませんし、「テコンドーは強い」ことを証明しようとする情熱や勢いが止まり、K - 1・MAX等で活躍する機会を失っていたかも知れません。

その場合、日本ではあいかわらず「テコンドーは弱い」とみなされたわけで、仮に、テコンドーが弱く、誇りを持てる武道ではないとするならば、いったいどなたが、J T Aに入門したのでしょうか。少なくとも最近増加している他の武道・格闘技経験者は、J T Aには入門しなかったはずです。

また、現役のJ T A選手達も、後樂園ホールリングに上れるからこそ、モチベーションが高まり、厳しい練習に堪え、予選会を突破すべく精進できるのであり、初出場の選手の両親や兄弟姉妹が遠方からかけつけるのも、知名度の高い後樂園ホールリングに家族が上るからではないのでしょうか。

このように既存のJ T A路線、とりわけ全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会を運営するにも財源が必要です。

5

問題は年会費の使途です。

たとえば、借金があれば借金をかえそうとする、それが人の性だと思います。

私は、基本的に借金を好みません。

その個人的指針を反映してJ T Aは、1円の借金も無い「健全財務」を堅持しております。

当然、J T Aの会長・理事長＝代表者の河明生は、住宅ローンも含め、1円の借金もありません。

したがって、みなさんが納入して頂いた年会費を私利私欲で使用することはありません。

その点に関しては一点の曇りもありません。

私は、「日本におけるテコンドーのパイオニア」としての自負があります。

私は昔から、権力者や資産家に頭を下げるのが苦手で、愛想笑いの一つもできません。

ゆえに財源調達を不得意とし、ある意味で理事長の職務を怠っているともいえます。

元来、理事長にはふさわしくありません。

将来、私にかわるJ T A理事長の登場を期待してやまない次第です。

けれども、乏しい財源の中、燃えたぎる使命感と知恵をしぼりながらJ T Aを率いてまいりました。それが私・河の生き様です。

そういう人生を約30年間歩むと、

個人的な家を建てて、所有するよりも、

日本全国に「素心のJ T Aホーム」を築き上げたいと考えております。

所有権も、囲いもないけれど、

「弟子・孫弟子・ひ孫弟子達と素心という絆で結ばれている武道場＝ホーム」

を築き上げたいのです。

みなさんが納入した年会費は、

J T Aを、純粋な向上心を満たせる武道場に、素心の武道場に発展させるべく使用します。

J T Aの重要な財源の一つである年会費納入につき、みなさまのご理解ご協力をお願いします。

記

一、J T A年会費納入者

J T Aの役員、師範、師範代、正指導員、クラブ長、一般会員等の全会員したがって免除者はありません。

二、J T A年会費

1人当たり2000円(当該年度内に退会しても返金できません)

三、納入日

- | | |
|---------|--|
| 1, 既存会員 | 毎年2月末日から1週間以内 |
| 2, 新規会員 | 当該新規入会者の入会月の月末から1ヶ月以内に納入
大学や高校の体育会・同好会も同じ |

四、納入方法

1, ゆうちょ預金口座からの徴収の場合

J T Aの本年度分の年会費は、2月27日に引き落とされます。

2月25日迄に

通常の会費 + 年会費2000円 + 郵便局手数料25円

を入金してください。

2, その他

- 1) 大学や高校の体育会・同好会等の学生団体、
- 2) 神奈川大学体育会テコンドー部OB会等の親睦団体、
- 3) ゴールドジム、神戸新聞カルチャーセンター、ジュージャ等の提携クラブの会員
- 4) 有段者でJ T Aテコンドーを継続する意志があるが、近隣の都道府県にクラブがない学生会員における直接徴収の場合

年会費の振り込みは、各クラブ・体育会・個人毎に下記口座までお願いします。

< 振込先 > 郵便振替口座

名 義 日本テコンドー協会
口座番号 00160-6-185058

* 振り込み手数料はクラブ負担です。

< 1 > 振り込み人の名義

振り込み担当者は、

住所、氏名欄にクラブ名を明記し、団体の代表として振り込んで下さい。

例1) 東京都大田区南六郷2-27-7
J T A東京城南テコンドークラブ
代表 鈴木太郎

例2) 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学横浜校体育会テコンドー部
代表(主務) 神奈川 太郎

例3) 京都市左京区1-1-1

京都経済大学大学院生 京都一郎(JTA初段)

通信欄に「2010年度**名分年会費」と明記して下さい。

- ・振り込み控えは、確定申告の際、必要ですので、保存して下さい。
- ・大学や高校などの公認体育会や同好会は、この「年会費振り込み控え」を保存し、「収支決算期」に学生課などの課外活動統括部署に提出して下さい。学生課外活動の補助金の目安となります。

<2> ダブル所属の場合

神奈川大学体育会テコンドー部OB会、大学や高校、企業や官公庁の体育会・同好会等に所属しながら、JTA加盟クラブの練習にも参加している会員は、年会費を二重に収める必要はありません。

この場合、

所属クラブに収めて下さい。

最近、神奈川大学体育会テコンドー部OB会会員で復帰する有段者が増えています。同OB会年会費を納めている場合、JTA年会費を別途に納める必要はありません。

会員名簿の備考欄か振り込み用紙通信欄に

「ダブル会員(神大OB会所属) 横浜次郎1名分除く」

と記入して下さい。

ダブル会員が所属している大学、企業、官公庁、高校などの体育会・同好会・サークルなどの会計責任者は、

下記の会員名簿か通信欄に

「ダブル会員(川崎クラブ所属) 東京太郎1名分除く」とか、

「ダブル会員(横浜クラブ所属) 東京三郎、横浜花子、川崎四郎3名分除く」

と明記して下さい。

3、会員名簿

クラブ長・大学責任者は、下記の項目を記載した会員名簿をメール(jta@jita.jp)で送付して下さい。

正確な会員データの把握により、改良・改善点がわかりますので協力をお願いします。

なお、個人情報保護を遵守し、他のいかなる目的にも使用しないことを誓約します。

氏名

性別

年齢(女性の場合、30代、40代、50代等でも可)

住所

電話

職業(学生は大学生・高校生と記入。会社員、公務員、自営業、自由業等で表示)

現級位・段位

武道格闘技経験(なし。または有り 空手、キックボクシング、剣道、柔道等を表示)

備考